

#小児生活習慣病
#低位舌 #おうち矯正
#「あげろーくん」
#「ポカンX」



佐藤 典子 先生

(医)朝倉歯科医院 副院長
大阪大学歯学部臨床研修指導医
小児歯科医・トリートメント＆

Whiteningコーディネーター

朝倉歯科医院

インプラント審美補綴研究所
大阪大学歯学部臨床研修施設

小児歯科Happy club

ホワイトニングサロンBLANCA
茨木市南春日丘1-1-19

072-625-2001

0120-468-321
com21adc@gold.ocn.ne.jp



今、子どもたちの歯と口は健康なのか？

～噛める、食べる、飲み込む、呼吸する、発語するが将来を左右する～

厚生労働省は1990年より小児成人病を定義して生活習慣病の若年化を問題視しています。2009年に子どもの肥満・糖尿病の70%が成人肥満・糖尿病へ移行することがわかってきました。歯列弓が成長していく子どもの時期に軟食で咀嚼回数が減ると、歯並び、噛み合わせが悪くなり、肥満にもなるのです。健診では、むし歯や歯周病の有無だけでなく、口腔機能の発達や食生活、咀嚼回数をチェックすることが大切です。又、舌の位置が常に口腔底にある低位舌や歯列を押すような舌癖があると不正咬合になります。姿勢の悪さや猫背は頭部が前方位となり、口呼吸、口唇閉鎖不全、「口ポカン」を引き起こし、飲み込む時の舌や口唇の協調

運動が低下し、嚥下機能が低下します。そして、サ行やラ行の発語が不明瞭な場合には舌や口唇の筋力低下が疑われ、、口腔機能発達不全となります。早期に歯と口の適切な成育プログラムを作成し、2歳児からの口腔育成に取り組みましょう。



セカンドオピニオン外来の相談は朝倉院長がお聞きします
インプラント、金属アレルギー・入れ歯・咬み合わせ・歯周病・矯正・口臭治療・SAS治療・審美歯科・訪問診療などはお気軽にご相談ください。